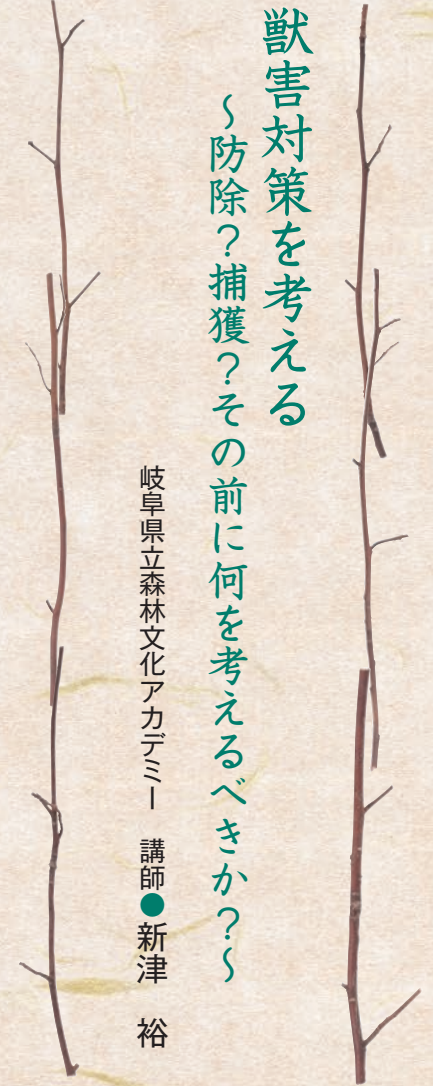


獣害対策を考える

「防除？捕獲？その前に何を考えるべきか？」

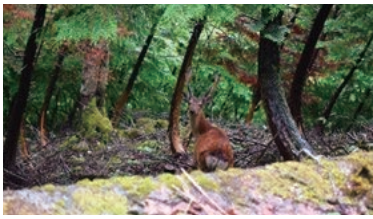
岐阜県立森林文化アカデミー 講師 ● 新津 裕



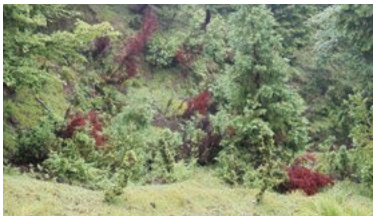
● 獣害って何？

獣害とは、主に野生動物（獣）によって引き起こされる被害のことを言います。

例えば害獣となりうる野生動物が餌を探したり食べたりすることによって引き起こされる「農業被害」。人に対して攻撃してしまい死傷被害を引き起こす「人的被害」。害獣が家屋の床下や屋根裏に侵入し活動する「家屋被害」。害獣による過剰な捕食・採食によって生物や植物の絶滅危惧や環境を破壊してしまう「生態被害」などが「獣害」と呼ばれています。森林としては、下層植生や稚樹等の次世代を担うハ



樹齢10年程のヒノキ樹皮を摂食しているニホンジカ



継続的にニホンジカの食害を受けた森林

ズの樹が食べられてしまうことによって森林の更新が出来ない・植生が単一化してしまふといった被害が出ています。また植林した苗木の枝葉が食べられてしまったり、せっかく数十年かけて育った樹木の樹皮が剥がされて健全に育成できなくなってしまうといった被害も多く出ています。

● 獣害への対策

林業への被害の多くを占めるニホンジカへの獣害対策として、植林したエリアに入ってこれなくする為の柵を張り巡らせる・樹木一本一本を保護する網や筒状の素材で巻く・忌避効果のある薬剤を散布する等様々な対策を行っていますが、どれも生息密度の高い地域では山林所有者を安心させるには費用的にも効果的にもいまいち。

私がかつて林業を行っていた地域では、獣害対策として山林に植林地を囲う様に多数鹿柵を設置しました。設置後に柵を見回りに行くと、柵のなかでのんびりと食事をしているシカの姿を見かける事がありました。追い出そうと思ひ、出入り口を探して歩き回っている間に鹿はびよーんと柵を飛

び越えて逃げていく姿を目にしたこともあります。

● 相手を知らぬこと

さて、「せっかく対策を講じたのに効果が出ない」というのは非常に悔しいですね。どの対策を検討するか？と検証する前に、まずは相手の事を知ることから始めてみませんか。

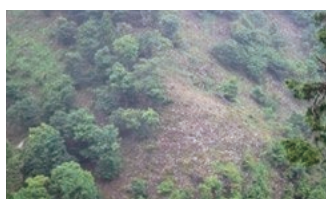
例えば「何を好んで食べるのか」「どんな場所に住むのか」「行動の特徴」「どんな時期に被害を出してしまうのか」などを意識してみると、より効果的な対策を考える事が出来るのではないのでしょうか。

ニホンジカはどのような特徴があるのでしょうか？◆食べ物…草食動物として枝葉や季節によっては樹皮など採食します。好みの幅は広く1000種程度の植物を食べると言われています。◆住む場所…下層植生が豊富にある伐採跡の草地や、姿を隠せる植林が混在するモザイク状の森林を好みます。◆特徴…夜行性と思われるがちですが、人の生活を避けて日中も活動します。ジャンプ力が高く、助走が出来れば2m程度で

あれば飛び越えることも出来ます。オスは単独行動、メスは子供と群れを作って複数で行動します。◆時期的な特徴…オスは毎年4月頃に角を落とし8月頃にかけて新たな角を生やします。角が完成し角の皮がめくれる時期に立木に角を擦り付ける為、この時期に樹皮への被害が出やすい。繁殖期は9月頃。冬季の餌が少ない季節に常緑の植林木の食害が発生しやすいと言われています。



7月のニホンジカの角。



ニホンジカの好む森林の例

● 効果的な対策の検討

シカ柵を設置する際には、シカのジャンプ力を考慮して助走出来ない様な配置にする・大径木の切り株に乗って乗り越えられないようにするといった配慮が必要です。角擦が発生しやすい時期は繁殖期前の8月頃です。被害が発生してからでは遅いため、被害を抑えるためにはそれまでに樹皮を守る防護対策を行うか、夏の期間までに許可捕獲でオスジカを積極的に捕獲してもらう必要があります。

このように被害と動物の行動を関連付けながら対策を考えていくと、より効果的な時期に防除が行えることでしょう。「相手の事を理解して行動する」何気ない事ですすがそれが対策の一番近道かもしれません。